

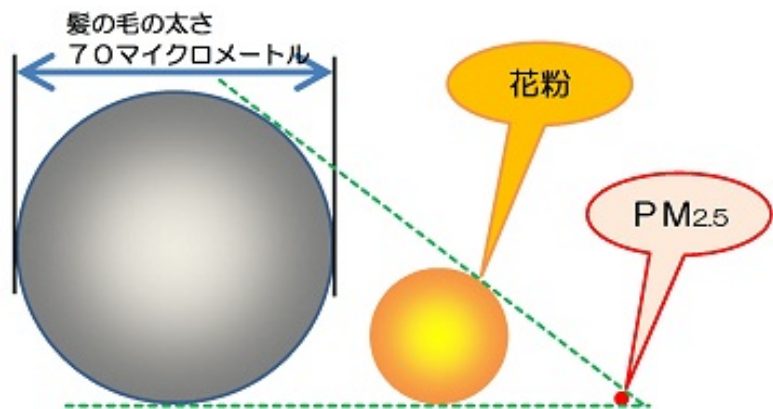
平成 25 年 6 月 1 日

最近ニュースで話題になっている「PM2.5」という言葉を聞いたことはありますか？大気汚染の原因の1つと言われ、近年日本でも、国が定める環境基準を超える量のPM2.5が確認されています。

今回はこの「PM2.5」と健康への影響についてお話します。

● PM2.5とは？

PM2.5は大気中に浮遊している2.5μm(1μmは1mmの1000分の1)以下の小さな粒子のことです。身近な例で考えてみると、髪の毛の太さの30分の1ほどの大きさになります。非常に小さいため、呼吸のときに空気と一緒に肺の奥深くまで入りやすく、**呼吸系(のどや肺など)への影響**に加え、**循環器系(心臓、血管など)への影響**が心配されています。

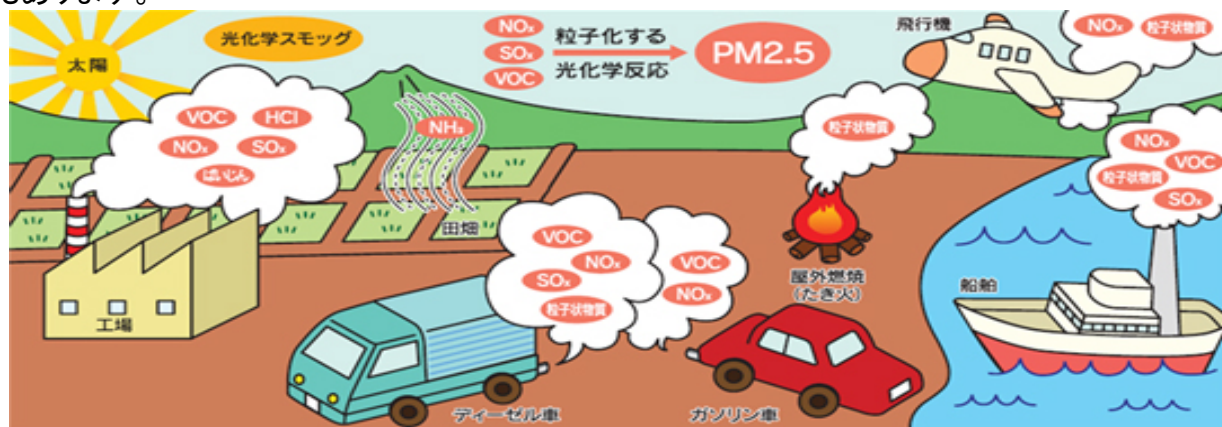


● PM2.5はどのようにして発生するのか？

PM2.5は物が燃えるときに直接粒子として排出されるものと、**硫黄酸化物(Sox)**、**窒素酸化物(NOx)**、**揮発性有機化合物(VOC)**などのガス状大気汚染物質が、大気中での化学反応により粒子となったものがあります。



発生源としてはボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、**コークス 炉**、**鉱物の堆積場**等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの(料理、喫煙、ストーブ)、さらには、**土壌**、**海洋**、**火山**などの自然起源のものもあります。



● 環境基準とヒトへの影響

平成 21 年 9 月 9 日、環境省は微小粒子状物質における環境基準を設定しました。(1年平均値が大気1m²当たり15μg(1μgは1mgの1000分の1)以下であり、1日平均値が大気1m²当たり35μg以下となっています。)

環境基準は、生活環境の保全上望ましいとされている政府・自治体の目標値ですので、基準を超過することによりすぐに健康に影響があるというものではありませんが、岡山県では県内の状況を常時監視(24時間の連続測定)しています。

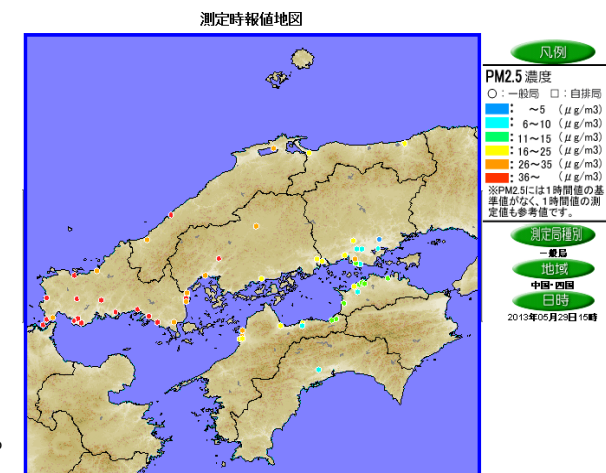
環境省が平成 25 年 2 月に設置した専門家による会議では、健康影響が出現する可能性が高くなると予測される濃度水準として、注意喚起のための暫定的な指針となる値を1日平均値70μg/m³と定めています。

● 対策

PM2.5を始めとする大気汚染物質濃度の現在の状況については、環境省の**大気汚染物質広域監視システム【そらまめ君】**

(<http://soramame.taiki.go.jp/>)

や各自治体のPM2.5 関連情報サイトなどで速報値が公表されています。



これからの季節はPM2.5の濃度が変わりやすく、また濃度が高くなる傾向があります。PM2.5の濃度が暫定的な指針となる値を超えた場合には、その吸入量を減らすため、**屋外での長時間の激しい運動や外出をできるだけ減らす**ことは有効です。その際、屋内においても**換気や窓の開閉を必要最小限にする**などにより、外気の屋内への侵入をできるだけ少なくする必要があります。また、**ウイルス用の高性能マスクの着用**も有効です。

特に呼吸器系や循環器系の疾患をもつ人、小児、高齢者などでは、より影響を受けやすい可能性があるため、普段から健康管理を心がけるとともに、体調の変化に注意することが大切です。

<参考>

環境省ホームページ

<http://www.env.go.jp/>

岡山県の大気環境の状況

<http://homepage2.nifty.com/okayamataiki/top.html>

環境省大気汚染物質広域監視システム

<http://soramame.taiki.go.jp/>

